

# 幸田町スーパーシティ「The Well City 幸田」基本方針概要

幸田町スーパーシティ構想「The Well City 幸田」は、防災をメインテーマに、「幸せの田畑を培い・育むハッピーフィールド／安全・安心な緑住文化都市」を構築する。防災については、迫りくる南海トラフ等の巨大地震をはじめとして、あらゆる災害に対応すべく、最先端の技術やサービスを活用し、防災コミュニティの構築等、**地域主体の防災・減災の仕組みづくり**を行う。また、防災のみならず、地域の高齢化やコロナ禍への対応等の諸課題に対しても、農業や医療、モビリティといった分野でソリューションを提供しつつ、**災害時・平常時の「デュアル・モード」で住民の幸せを実現**していく。

当スーパーシティ構築を通じて、産官学民の連携、周辺自治体との広域連携による防災でのまちづくりの在り方とともに、高齢化が進み、耕作放棄地となっているエリアの活性化手法を示し、産業集積地ならではの**コレクティブ・インパクトによる新たな防災産業の創出**のモデルをつくっていく。

※ なお、スーパーシティの構築にあたっては、第5次社会資本整備重点計画や第5期科学技術基本計画等、国における諸計画も踏まえ実効性のあるものにしていく。

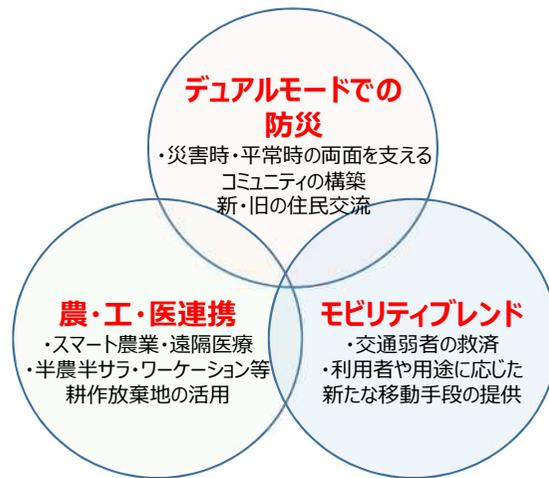
## 新たな地方創生のモデルとなる世界に誇る郊外型のスーパーシティを構築

### 住民ニーズ・地域課題の認識

- 住民の高齢化・耕作放棄地の増加により、**防災・農業・医療・地域交通の充実等を含む、まちの再開発**を望む声が大い。
  - 当地域は、三河地震でできた深溝断層を抱えており、防災に対する意識は高く、住民からは、多発する**自然災害や新型コロナウイルス感染症等を踏まえ、『大規模災害とパンデミックの複合災害』への備え**が求められている。
  - また、**隣接する海沿い自治体からは震災時の津波・台風の際の風水害・高潮等に備えた避難エリアの整備**が求められている。
  - さらに、自動車産業等、周辺企業からはBCPの側面から、**災害時の交通・物流の確保等、あらゆる災害に対応できるバックヤード**が求められている。
- ※ 一方、耕作放棄地の開発にあたっては、**土地利用規制が障害**となっている。

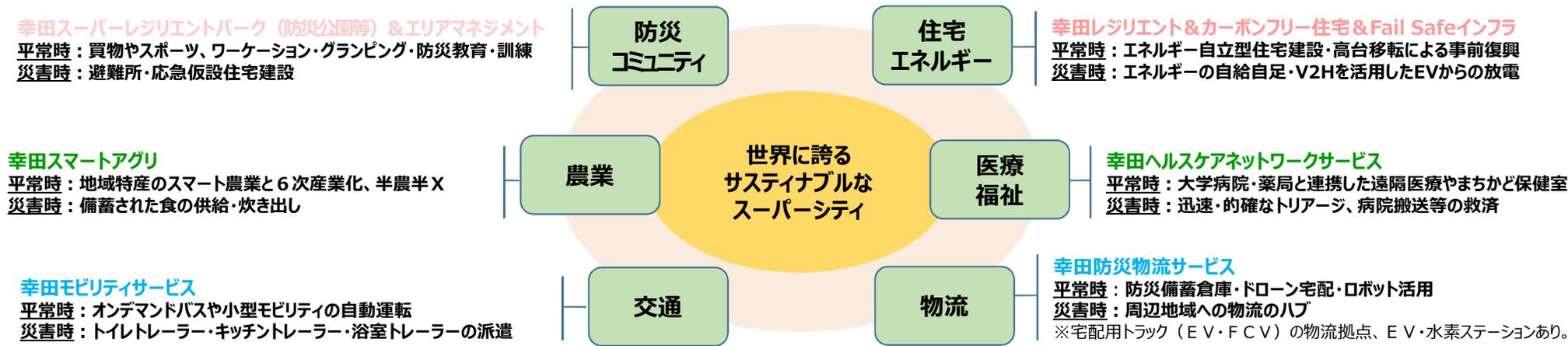
### 「The Well City 幸田」基本方針

- ・**防災・減災・防疫によりいつまでも安心して暮らせるまち**
- ・**農業を活用した多世代がいきいきと交流するまち**
- ・**自動車産業が集積するものづくり日本一、三河地域ならではのまち**



## サステナブルを実現する幸田町スーパーシティの最先端サービス

**連携企業等の最新技術を用いて、平常時&災害時のデュアルモードでの暮らしの安心・安全を実現（オールハザード・アプローチ）**



### データ連携基盤：都市OSが平常時・災害時の両面で暮らしをサポート

**平常時**：個人データを連携させることで、次世代型の医療・交通サービスや、地域コミュニティ内での見守り、災害に強い人づくりを実現  
**災害時**：個人データ（健康状態、位置、安否等）やインフラデータ（道路状況等）がまとめて可視化・共有されることで、スムーズな人的、物的サポートを実現  
**「情報銀行」の仕組みを活用し、個人情報を本人の同意に基づき運用。住民目線の防災DXを実現。**

# 幸田から中部、日本、世界へと広がるWell Cityの輪

南海トラフ地震の発生を視野に入れた地域主体の3つの防災拠点構想が三位一体でスタート。  
 防災をテーマとした新たなまちづくりのひな型を日本全体、そして世界にひろげていく。

## 3つの防災拠点構想の検討が始動

### ■スーパーシティ「The Well City 幸田」

自動車産業等、モノづくり産業の集積地である西三河・幸田町におけるスーパーシティ構想  
 高台移転による事前復興等、あらゆる災害に対応するための「社会的備蓄」の考え方を取り入れる

### ■三の丸

官庁街・三の丸の大改造と防災司令塔構想（首都被災時の代替都市構想／三の丸ネサンスにて検討）

### ■名古屋空港隣接地

愛知県・名古屋市の消防学校の統合を視野に、空港を活用したロジの防災拠点構想



### ■中部経済連合会・名古屋商工会議所 共同宣言

「東京一極集中の是正に向けた地域の機能強化と魅力向上に関する提言」  
 地域版内閣府の設立の必要性を訴求

ロジ拠点

### 名古屋空港隣接地

愛知県・名古屋市の消防学校の統合  
 空港を活用したロジの防災拠点

### 司令塔 三の丸

（名古屋城に隣接する官庁街）  
 巨大災害発生時の中部圏の司令塔  
 首都被災時の代替機能

### 防災・減災・免災 スーパーシティ 幸田町 (The Well City 幸田)

事前復興  
(社会的備蓄)

JR三ヶ根駅

幸田町深溝  
海谷地区

蒲郡市

## 幸田町でも新たな防災活動が始動

### ■「西三河防災減災連携研究会※1」および「本音の会※2」

※1:幸田町+周辺9市の9市1町と名古屋大学、トヨタ自動車・中部電力・東邦ガス等が連携。  
 ※2:行政機関や企業等、百を超える組織が月に一度集まり、防災について本音で語り合う会。

### ■安全テラスセンター 24

「災害に強い人づくり」を目指し、大規模災害から24時間まちの安全安心を見守る体制を構築。  
 ご近所同士の助け合いの醸成を含め、幸田町独自の防災活動が始動。

### ■オンラインツアー「災(さい)とSeeing」

災害を今に伝える場所を巡るダークツーリズム。深溝断層等、三河地震の震災遺構を残すエリア  
 だからこそこの災(さい)とSeeingをクラウドファンディングを活用し開催。

### ■防災をテーマとした地域発のドラマや商品づくり

幸田町独自の消防団PRドラマ。主演に女優・モデルの越智ゆらのさんを起用し、子供にも防災に  
 関心をもってもらえる地域発のドラマを制作・放映。

### ■全国初の公道でのレベル4自動運転実験 (2017年12月14日実施)

自動車産業をはじめ日本のモノづくり産業の1割が集積するこのエリアならではの新たなモビリティ  
 サービスを全国に先駆けて実装していく。



幸田から愛知県、愛知県から全国、  
 全国から世界へと！



# 『The Well City 幸田』のコンセプトとゾーニングイメージ



## we'll be well

### 地方創生の新スタンダードを実現する“ビッグ・テラス”

防災・減災・免災スーパーシティ・・・幸せの田畑を培い・育むハッピーフィールド・安全・安心な緑住文化都市

- ここから始まる豊かな未来。 -

1 We'll : we will の短縮形。未来へ向かう姿を示す意思

2 Well : 健康・良好。住民のうれしさをつくり出す

3 Well : 井戸。古来より井戸の周りには水を汲みに人が集まる。

都市には井戸端会議のように懐かしいコミュニティが不可欠。

幸田ならではの新たな文化を汲み上げつつ、豊かな人のつながりの輪を広げていきたい。

## 幸田スーパーシティ・エリアマネジメントサービス

### 災害に強い持続可能なまちづくり

災害に強いひとづくり・なめらかなつながりを実践。まちのデータを常時更新しながら、最新の防災システムとエリアマネジメントにより、持続可能な暮らしを実現。明るくおしゃれに・楽しみながら、「誰一人取り残さない あらゆる災害に対応するまち」を住民とともに作りあげていく。

## 幸田レジリエント&カーボンフリー住宅

### エネルギーの地産地消

エネルギーの自立型の免災・減災住宅を構築。太陽光の余剰電力はE・Vに貯めたり、防災モールへのシェア等、まち全体のエネルギーバランスをみながら、最適エネルギーマネジメントによりエネルギーの地産地消を図る。

## 幸田スマートアグリ

### 地元へ根差した次世代型農業

ITを活用した高付加価値次世代農業&農業・福祉連携。スマート農業による食の地産地消。地元の特産品の加工販売、地元の方との農業の交流、農カフェ等の6次産業の実践。災害時に備えた食の備蓄も。

## 幸田ヘルスケアネットワークサービス

### 医療連携による健康のサポート

多世代の健康サポート。まちかど保健室での遠隔医療や医薬品の備蓄・販売等を実施。大学病院と連携した迅速・的確なトリアージも検討・実施。

既存エリアと新規エリアがなめらかにつながる  
「The Well City 幸田」



## 幸田スーパー・レジリエントパーク

### 平常時・災害時の暮らしを支える防災公園・防災モール

世界に誇る最先端の防災公園・防災モール等を構築。緑豊かな防災公園・防災モールは、住民の健康づくりや買物、グランピング等に加え、里山を楽しみつつ行う防災訓練の場にも。災害時に隣接する海沿いの自治体からも避難できるよう、応急仮設コンテナ住宅を平常時から設置し、コロナ禍をうけたワーケーションに活用する等、「社会的備蓄」の考え方を取り入れる。また、災害時は、ボランティアの宿泊、周辺企業の従業員が帰宅困難の際にも宿泊可能とし、モノづくりや食の流通を支える。異業種連携で防災ネットワークを育む。

## 幸田Fail Safeインフラ

### 強靱な社会インフラ

多重化された強靱な社会インフラ、ライフラインを構築

## 幸田モビリティサービス

### 最先端の都市交通網を整備

まち丸ごとバリアフリー。人・まち・地球を大切に作る最先端の都市交通を実現。既存エリアには、三ヶ根駅や新規開発のまちを結ぶ自動運転のモビリティターミナルを設置。古民家再生と地元材を活用し、まちの景観を維持・再生。

## 幸田防災物流サービス

### 未来の物流拠点を構築

レジリエント&カーボンフリーの未来型物流拠点を構築  
防災備蓄倉庫やドローン発着場も具備

# The Well City 幸田の推進体制（参画メンバー）

## 産官学民の連携・自治体の広域連携により、新たな価値を創出し、日本社会の未来を拓く

自動車産業等、日本のモノづくりの中心地・産業集積地ならではのコレクティブ・インパクトで地方創生の新スタンダードとなるビッグ・テラスを構築

 <p><b>幸田町長 成瀬 敦</b></p>	 <p>アーキテクト統括 幸田町スタートアップ研究所 所長 <b>近藤 学</b></p>	<p>アーキテクト支援</p>  <p>中部電力グループ    NTT西日本    日本政策投資銀行グループ</p>
---	--	---

幸田町では、防災の第一線の研究者を交え、幸田町安全テラスセンターの構築等、独自の取り組みに注力。

<p><b>デザインアーキテクト</b></p> <p>DRAFT Inc.    代表 <b>山下 泰樹</b></p>  	<p><b>情報系アーキテクト</b></p> <p>中部電力</p> <p>事業創造本部 部長 / 日本IT団体連盟 情報銀行推進委員会事務局長</p> <p><b>黒木 信彦</b></p>  
	<p>NTTコミュニケーションズ</p> <p>ビジネスソリューション本部 西日本営業本部 アノビスデューズ推進PT PT長</p> <p><b>脇野 直樹</b></p>  
	<p>トータルテクアムニティ</p> <p>公共医療システム事業部 公共中部営業部 担当部長</p> <p><b>鈴村 崇全</b></p>  

<p>防災・減災 企画アーキテクト</p>	<p>幸田町安全テラスセンター24 アドバイザー 名古屋大学 減災連携研究センター</p> <p><b>教授 福和 伸夫</b></p> <p>2012年 名古屋大学教授（減災連携研究センター） 2017年 産官学の結集による地域強靱化推進拠点「あいち・なごや強靱化共創センター」センター長 2019年 防災功労者内閣総理大臣表彰 2020年 中部防災推進ネットワーク・会長</p> 
	<p>跡見学園女子大学</p> <p><b>教授 鍵屋 一</b></p> 
	<p>㈱危機管理研究所</p> <p><b>代表 国崎 信江</b></p> 
	<p>㈱時事通信社 解説委員</p> <p><b>中川 和之</b></p> 



- ※1:幸田町を含む西三河10市町および名古屋大学・トヨタ自動車・中部電力・東邦ガス等で構成
  - ※2:行政機関や企業等、百を超える組織が月に一度、防災について本音で語り合う会。
- 中部エリアでは、西三河防災減災連携研究会等防災について、本気・本音で語り合えるリアルな場と産官学民の連携が構築されている。

- 西三河防災減災連携研究会※1
- 本音の会※2
- 中部防災推進ネットワーク
- あいち・なごや強靱化共創センター
- 南海トラフ地震対策中部圏戦略会議



デジタル・ツインにより、まちの情報を常に更新し、平常時・災害時の暮らしの安心をサポート

# 『The Well City 幸田』 全体像

都市OS（平常時・災害時の両面で暮らしをサポート）  
 防災をテーマとした新たなまちづくりのひな型を構築

防災・エネルギー・住宅

## 幸田スーパーシティ・エリアマネジメントサービス ～災害に強いひとづくり・なめらかなつながりの構築～

- 幸田町安全テラス24の取り組み、西三河防災・減災連携研究会などの広域連携の活動と連動し、防災コミュニティの構築や「防災サポーター」の育成を図る。
- エリアマネジメント組織を設立し、「まちアプリ※」なども活用し、対話を継続しながら、まちを住民目線でアップデート。  
 ※防災情報の他、自治体・学校からの連絡、まちのイベント情報、不審者情報、感染症情報、オンデマンドバスや自動運転車両の呼び出し、医療・介護の予約等。

## 幸田スーパーレジリエントパーク ～世界に誇る最先端の防災モール・防災公園の構築～

- 防災モール・防災公園と防災DXで、防災のハードとソフトの迅速な統合運用を実現。産官学民のコレクティブインパクトを通じて、世界に誇る防災システムを構築。
- 防災モール内にバーチャル防災・減災館を設け、VRを活用した防災教育や防災訓練を実施。
- 防災公園に「コンテナ式応急仮設住宅」を活用し、高台移転による事前復興を実現。防災公園では、平常時より健康増進とともに避難路確認や炊き出し訓練を実施。

## 幸田レジリエント&カーボンフリーなまち ～エネルギー自立型の防災・減災住宅の構築／カーボンフリーと、 “災害時にもエネルギーの途切れないまち”の実現～

- 太陽光発電や蓄電池・EV等を活用したエネルギー自立型の防災住宅やV2ZEHの減災住宅。P2P取引による再エネのシェアや空間移動できる未来型住宅。
- 災害時は電動車（EV・PHV）を活用し、コミュニティセンターや近隣の停電地域の重要拠点への給電も実施。
- 各戸の太陽光発電設備、蓄電池、EV等の「リソースアグリゲーション」、HEMSを活用したまちのデマンドレスポンスによるCO2排出量削減、カーボンニュートラルを実現。

## 幸田 Fail Safe インフラ ～強靱なライフラインの構築～

- 社会インフラの強靱化・多重化（電線の地中化、復旧ルートの事前確保、停電対応型ガスコージェネ、溶接鋼管・ポリエチレン管によるガス供給、LPWA等）
- ドローンによる共同設備巡視とデジタルツインによる災害状況の可視化、スマートメーターを活用した防災計画の策定 等

## 幸田スマートアグリ ～ITを活用した高付加価値次世代農業および農業・福祉連携の実践～

- 筆柿やイチゴ等の地元産品を活用したスマート農業と6次産業化により地域農業の活性化を図るとともに、災害時に備えた加工品の備蓄を行う。
- 災害時には備蓄倉庫から一時的な食糧供給を行う。施設から排出されるCO2を栽培に利用した施設園芸に活用。
- コロナ禍を踏まえ、地元企業と協力し、ワーケーションや半農半Xの実践の場にしていく。

農業・医療

## 幸田ヘルスケアネットワークサービス ～DX・産官学連携による多世代の健康サポート～

- 大学病院やドラッグストア等が連携した災害時の迅速・的確なトリアージとドローン救急車による搬送。
- 平常時におけるAI医療・健康相談およびオンライン服薬指導、災害時におけるモバイルファーマシーを活用した医薬品供給や電力データを活用した家ナカ見守り
- 平常時の健康相談から災害時の応急診断の拠点となる「まちなか保健室」の設置。

移動・物流

## 幸田モビリティサービス ～まち丸ごとバリアフリー 人・まち・地球を大切に作る最先端の都市交通の実現～

- 高齢者、子ども等自家用車を持たない地域住民のための公共交通をオンデマンド、自動運転で実施。
- チョイソコ幸田のスーパーシティへの延伸・乗入れ、小型パーソナルモビリティ、送迎バスのシェア、鉄道等の既存交通業者とのMaaS連携。
- 電気自動車の蓄電・放電機能を発揮することで、移動のみならず、防災、環境エネルギー、医療・介護等にも資する取り組みとする。

## 幸田防災物流サービス ～レジリエント&ゼロカーボンの未来の物流拠点の構築～

- 宅配用EVやEV・水素トラックのハブとなる物流拠点を構築。
- EV・水素ステーション、防災備蓄倉の他、ドローンを含むヘリポートを備え、ドローンを活用した宅配、自動運転車両や無人配達ロボットでの自動配送も実施。

# 平常時・災害時デュアルモードのデータ連携によるサービス案

行政管理情報（マイナンバー）も含む各分野間のデータ連携により、日常利用するサービスが災害時には有用なサービスとしてデュアルに活躍

	平常時のサービス	災害時のサービス
①	<b>“まちアプリ”の利用による地域内連携力の強化</b> （データ：防災×医療介護×物流）	マイナンバー連携想定
	<b>(1)地域情報の配信</b> ・自治体や学校連絡、防災・防犯情報、子育て情報等イベント情報配信 <b>(2)地域内のサービス利用予約</b> ・オンデマンドモビリティ、まちの保健室診療や店舗の利用予約 <b>(3)地域内ポイントの活用</b> ・地域内での決済利用やイベント優先参加権の獲得可能な“地域ポイント”が、防災訓練・ボランティア参加、アプリ利用等で貯まる	<b>(1)住民の安否確認</b> ・まちアプリによる安否確認 <b>(2)円滑な人的・物的支援のサポート</b> ・避難所毎での必要リソース（人・モノ）情報の受発信 ・物資配布に関する通知 ・自治体等からの情報配信による「デマの流布」抑止
②	<b>幸田町で実践する*スモールコミュニティでの共助支援</b> （データ：防災×医療介護）	マイナンバー連携想定
	<b>(1)独居者の見守り活用</b> ・異常検知時（冷蔵庫長期未開閉など）に家族やコミュニティ内へアラーム通知 <b>(2)防災訓練での活用</b> ・コミュニティ単位での防災訓練時に安否確認や要避難補助者情報を活用	<b>(1)迅速な相互支援の実現</b> ・要避難補助者の位置情報や安否確認未入力情報をコミュニティ内で共有 ・コミュニティ内の情報伝達機能により円滑な共助をサポート
③	<b>住民の健康増進・維持のサポート ※非常時は避難者を含む</b> （データ：防災×医療介護×物流）	マイナンバー連携想定
	<b>(1)健康増進のための運動プログラムレコメンド</b> ・自治体や医療機関等の健康管理データをもとに運動プログラムをレコメンド <b>(2)災害へ備えた要補助者情報の整備</b> ・災害へ備えた服薬情報、必要な医療サポート情報の投入及び管理	<b>(1)避難生活での健康維持・管理サポート</b> ※周辺からの避難者情報も追加 ・避難生活者の健康管理情報や服薬情報などから、必要な医療関係者救援や物的支援を実現 <b>(2)住民の自力避難率の向上</b> ・平常時での健康増進・維持による自力避難率の向上を図る
④	<b>社会インフラや交通情報のデジタルツイン利用による“まち機能”の強靱化</b> （データ：防災×エネルギー×通信×交通）	
	<b>(1)社会インフラ情報や交通情報等の共用化</b> ・自治体や事業会社のインフラ設備状況をドローン、車両等で取得し共用 ・まち情報のデジタルツイン化により、自動運転車の最適運行に活用	<b>(1)リアルタイムデータ反映による社会インフラの早期復旧サポート</b> ・ドローンや特殊車両による撮影データのデジタルツインへのリアルタイム反映 ・平常時デジタルツインとの比較分析などでの復旧プラン策定支援

\* 幸田町では、現在「隣近所5軒の助け合い」を実践中。今回のフィールド内では、デジタル活用で15世帯程度までの拡張を想定。

「The Well City 幸田」の概要（イメージパース）

grand concept

# we'll be well

## 地方創生の新スタンダードを実現する“ビッグ・テラス”

防災・減災・免災スーパーシティ・・・幸せの田畑を培い・育むハッピーフィールド・安全・安心な緑住文化都市

1 We' ll : we will の短縮形。未来へ向かう姿を示す。 2 Well : 健康な、申し分ない、調子の良い 3 Well : 井戸  
 古来より井戸の周りには水を汲みに人が集まります。人に水が欠かせないように、都市の形成にも、井戸端会議のように懐かしいコミュニティが不可欠。  
 幸田ならではの新たな文化を汲み上げつつ、豊かな人のつながりの輪を広げていきたい。



# 幸田町三ヶ根エリアで防災をテーマとした新たなまちの物語がスタート

楽しみながら防災意識を醸成



防災ドラマや消防カレー等

平常時&災害時  
デュアルモードで活用できるまちを検討



平常時も災害時もデュアルモードで活用できるコンテナ住宅  
ふるさと納税を活用した事前の「住宅備蓄」の検討

広域での産官学連携による  
防災・減災活動



西三河防災減災連携研究会  
周辺自治体と名古屋大学・トヨタ自動車・中部電力・東邦ガス等、  
産官学が連携し、巨大地図を活用した防災訓練を実施

農・工・医の連携を促進



藤田医科大学との連携



スマート農業と6次産業化



幸田町安全テラスセンター24本格始動

日本初の自動運転レベル4公道実証  
新たなモビリティサービスも開始



幸田町スタートアップ研究所  
Kota Startup Institute  
Since 2020.4

筆柿生産日本一  
里山の資源を活かしたまちづくり

